

私たちの歌「いちばんぼし」初演！！

私たち富士通川崎合唱団は、さる2月11日（金・祝）に開催された「第34回神奈川県合唱フェスティバル 詩人シリーズ パート2 ～まど・みちおさんのうたの世界～」に出演しました。このイベントは、神奈川県合唱連盟主催の行事で、回ごとにテーマが決められ、出場団体はテーマに沿った合唱曲を演奏して、お互いに聴き合う合唱祭です。今回は川崎市在住の現役詩人まど・みちおさんの詩を合唱にした作品をテーマとし、11団体が参加しました。当合唱団としては初めての出場となります。

■場所 神奈川県立音楽堂

■演奏曲

《単独演奏》

- (1) うたを うたうとき【作詩：まど・みちお 作曲：木下牧子】
- (2) どうしていつも 【作詩：まど・みちお 作曲：木下牧子】
- (3) いちばんぼし 【作詩：まど・みちお 作曲：黒崎和雄】

《合同演奏》

- (1) おんがく 【作詩：まど・みちお 作曲：木下牧子】

■指揮：加藤雅子（単独演奏時）

平井保（合同演奏時：神奈川県合唱連盟副理事長）

【当日の様子】



まど・みちおさん作の絵を配したパンフレット類

当日の朝は以前からの予報どおり、積雪こそまだありませんが、雪が舞う寒い日でした。それでも今日の合唱フェスティバルはちょっと気合が入っています。これが私たちにとって今年度最後のイベントであることがひとつ。またもうひとつとてもうれしいことがあるのです。それは…
なんと、当団団員である黒崎和雄作曲の「いちばんぼし」を初めてステージで演奏するのです！

今回のイベントは、詩人まど・みちおさんの詩を合唱にした作品をテーマにするということで、単独では3曲演奏します。最初の2曲はとてもピュアでロマンティックな詩と音色が私たちとしても大好きな曲です。ほかの団体ともダブったりしていますが、私たちなりの「オトナの」表現力で聴かせたいところです。3曲目が今日の目玉「いちばんぼし」。シンプルで素直だからこそ心に沁みる曲…今後長くわが団の愛唱歌として歌い続けていきたいと思っています。



当日練習。リラックスして体を徐々にあたためる



小雪降る極寒の中、練習場から会場へ移動

9時に富士通ユニオンビルに集合し当日練習後、すぐに今日の会場である、桜木町の神奈川県立音楽堂へ移動します。このところ、風邪が団内にも蔓延しており、完全防備の厚着姿・マスク姿も目立ちます。会場に着くと昼食もそこそこに、更衣→合同リハーサル→単独リハーサルと刻みみのスケジュールをこなして、本番ステージです。

団員お手製の、「いちばんぼし」をイメージした銀の星型のモチーフを左胸に着け、いよいよステージのまぶしい光の中へ！



心をこめて歌いあげる「いちばんぼし」

コンクールなどとはちょっと違う、あたたかい雰囲気の中がとても気持ちよく歌い出すことができました。なかなか練習時間がとれず、体調や喉が本調子でない団員がいる中ではありますが、皆が同じ感動を持って同じ歩き方で歌うように心がけました。

ずうっとレガートに、音がぶつかるところ、動きを出すところ、ひそひそ話すところ…練習を重ねた点については結構うまく表現できたように思います。

記念すべき初演となる「いちばんぼし」は、他の方々からの評判も上々、“団員の・団員による・団員のための曲”の演奏がこの様な形で実現してとても幸せです。

この合唱フェスティバルは、他の団との合同演奏、普段ボイストレーニングでお世話になっている望月寛之先生の所属するプロのアカペラ三重唱ユニット「ももたらう」のゲスト演奏、まど・みちおさんのご長男の貴重なスピーチなど、普段とは一味違う、出演する側としても非常に楽しめる有意義なイベントでした。

2010年度の当団出演イベントはこれで終了しました。来年度の活躍もご期待ください！



演奏後、ホール客席にて